令和８年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立南川副小学校

４月から５月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調 査 期 日 令和8年4月23日（木）

(注)質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調 査 の 内 容

(1) 教科に関する調査

国語、算数

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学６年生及び中学３年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

調査結果及び考察

質問調査

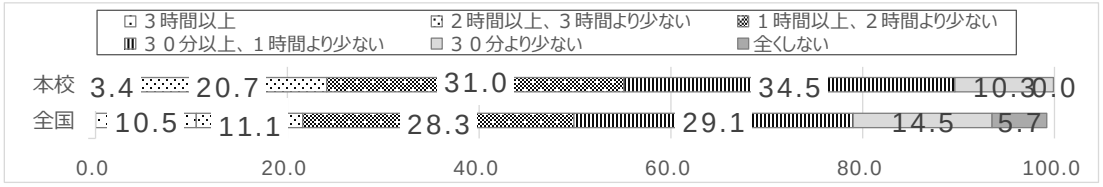
佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》　（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（%）

質問番号	質問事項	本校（%）	全国（%）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	65.5	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	75.8	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	93.1	91.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	79.3	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	82.7	78.4
23	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)１日当たりどれくらいの時間勉強していますか		



本校の調査結果　※◎（強み）、●（課題）

◎自ら課題に向き合い、友達や周りの人と協力しながら学習に取り組もうとする姿が見られます。

◎話し合いや協働を通して学びを深めたり、自分で学び方を考えたりするなど、主体的に学習に取り組もうとする意識が育っています。

●学習を振り返り、自分に合った学び方を選択・調整しながら、学びをさらに自分事として進めていく力を高める必要があります。

●家庭での学習時間を確保するとともに、学習内容や方法を自分で考え、計画的に学習する習慣を身に付ける必要があります。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	65.5	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	79.3	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	89.6	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	86.2	92.5

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.6	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	79.3	80.1

本校の調査結果　※◎（強み）、●課題

◎多くの児童が学校生活を前向きに捉え、自分のよさを感じながら、人の役に立ちたいという思いをもって生活しています。

◎人との関わりを大切にし、周囲の人や社会に貢献しようとする意識が育っています。

●地域や社会との関わりを通して、自分も社会の一員として役に立っているという実感をもてるような活動を充実させる必要があります。

●将来の夢や目標と現在の学習や学校生活とのつながりを実感し、自分の可能性を広げていけるような機会を充実させる必要があります。

調査結果を受けて

【学校では】

○子どもが自分のよさや成長を実感できるよう、日々の学習や活動の中で、一人一人のよさや努力を認め、価値付ける場を充実させます。

○子ども自身が考え、選択し、挑戦する場面や友達や学校のために役割を果たす機会を大切にし、「自分も人の役に立てた」という実感につなげます。

○学級活動や学校行事等を通して、互いのよさを認め合い、安心して自分らしさを発揮できる学級・学校づくりを進めます。

【ご家庭では】

○子どもの話に耳を傾け、「どうしたの？」「どうしたい？」などの言葉かけを大切にし、子どもの思いや考えを受け止めることを大切にしてください。

○結果だけでなく、努力したことや工夫したこと、できるようになったことを認め、子どもが自分の成長やよさを実感できるような声かけをお願いします。

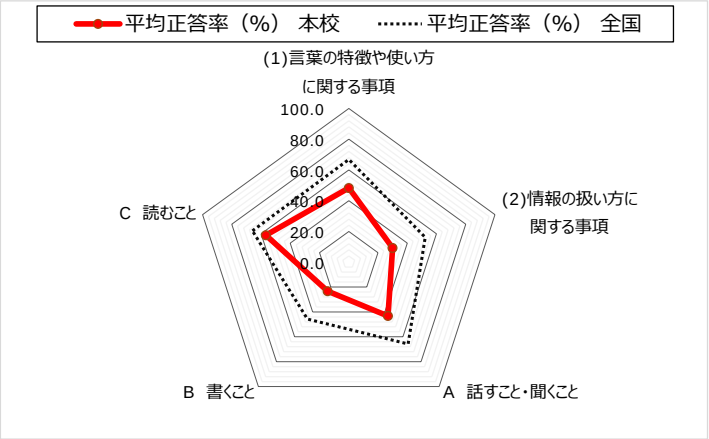
○家庭で子どもが役割を担ったり、家族のために行動したりする機会を大切にし、「ありがとう」「助かったよ」と伝えることで、人の役に立つ喜びにつなげてください。

教科調査

国　語

《学習指導要領の内容別　平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率（%）	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	48.3	66.8
	(2)情報の扱い方に関する事項	30.0	52.3
思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	43.3	65.8
	B　書くこと	23.3	45.7
	C　読むこと	56.7	65.9



《問題形式別　平均正答率》

問題形式	平均正答率（%）	
	本校	全国
選択式	39.3	61.9
短答式	50.0	62.6
記述式	45.0	54.9

結果　※◎（強み）、●課題

◎文章を読んで内容を理解したことを基に、自分の経験したことと結び付けて自分の考えをまとめる力が身に付いています。

●複数の情報を整理・関連付けたり、情報と情報との関係を捉えたりする力に課題が見られます。

●問題文の意図を読み取る力や、根拠を明確にして文章に表現する力を高める必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率（%）	
		本校	全国
3三（2）	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	80.0	76.4
2三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	36.7	45.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率（%）	
		本校	全国
3一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	50.0	76.7
3二	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	30.0	55.6

調査結果を受けて

【学校では】

○読書活動を推進するとともに、文章を読んで考えたことを話したり書いたりする活動を充実させ、考えを表現する力を育てます。その際、「なぜそう考えたのか」「どこからそう考えたのか」を大切にし、根拠を明確にさせます。

○文章や資料から必要な情報を取り出し、比較・分類・関連付けながら整理する学習活動を充実させます。

【ご家庭では】

○読書やニュース、日常の出来事などを題材に、「どこが大事だと思った？」「なぜそう思った？」と問いかけ、根拠をもって自分の考えを文章や言葉で表現する機会をつくってください。

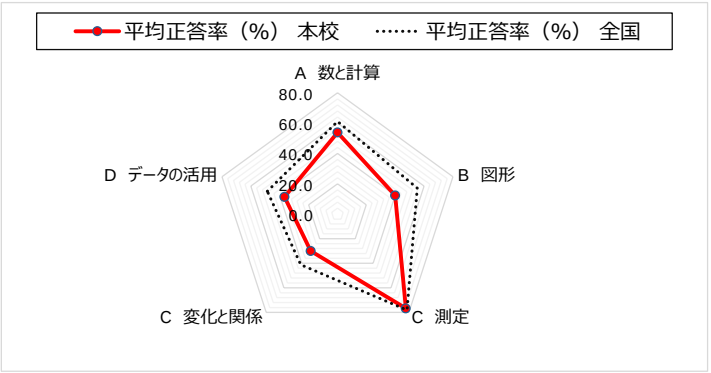
○読書や家庭学習の習慣を身に付け、文章に触れる機会を増やすことで、語彙力や読解力、学習の基礎となる力が身に付きます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

教科調査

算数

《学習指導要領の内容別　平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率（%）	
	本校	全国
A　数と計算	53.8	61.1
B　図形	40.0	55.3
C　測定	76.7	78.1
C　変化と関係	30.0	41.1
D　データの活用	36.7	48.6



《問題形式別　平均正答率》

問題形式	平均正答率（%）	
	本校	全国
選択式	46.0	56.0
短答式	48.8	59.7
記述式	36.7	48.5

結果　※◎（強み）、●課題

◎小数や数量の関係を捉えて条件に合う数を求めるなど、既習の知識・技能を活用して問題を解決できる力が身に付いてきています。

●図形やデータの活用について、図やグラフから必要な情報を読み取り、数学的な意味を考えたり、その理由を説明したりする力を高める必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率（%）	
		本校	全国
3（1）	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	96.7	94.5
4（2）	示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる	76.7	78.1

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率（%）	
		本校	全国
1（2）	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる	36.7	63.0
3（4）	単位分数の個数に着目し、数直線上の１を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる	43.3	68.1

調査結果を受けて

【学校では】

〇具体物を図、数直線などを活用した数学的な活動を充実させ、数量や図形について実感を伴って理解できるようにします。

〇問題文や図、表などへの書き込みを丁寧に行わせ、必要な情報を整理・確認しながら、問題の条件を正確に読み取る力を育てます。

〇図・式・言葉・グラフなどを関連付け、「なぜそうなるのか」を説明したり、友達の考えと比較したりする活動を充実させます。

【ご家庭では】

〇買い物、料理、時刻、距離など、生活の中にある算数に目を向け、「どちらが多い？」「どのくらいになりそう？」「なぜそう考えた？」など、理由を尋ねる声かけをお願いします。

〇計算練習だけでなく、グラフや表を見て分かったことを話したり、日常生活の中の数量の関係について考えたりする機会を大切にしてください。